

東京大学

東京大学演習林のトピックス

【秩父演習林 100 周年】

秩父演習林は、東京大学農学部の冷温帯地域における教育試験研究施設として、1916（大正 5 年）に埼玉県大滝村（現秩父市）荒川源流域の民有林約 6,000 ha を購入して設置されました。創立 100 周年を迎え、2016 年 11 月 5 日（土）、秩父演習林創立 100 周年記念式典が開催されました。式典には、来賓の秩父市長、研究科長、演習林長をはじめ、78 名の方々に参加いただきました。式典では、秩父演習林とかかわりの深い企業や先生方による講演が行われ、秩父演習林 100 年の変遷や研究成果について、科学的分析や思い出を交えてお話いただきました。



【山中湖村との地域交流に関する協定締結】

2017 年 3 月 7 日、富士癒しの森研究所と山梨県山中湖村との間で、地域交流に関する協定の締結式がとり行われました。締結式では山中湖村・高村文教材長と浅野友子所長が署名捺印を交わしました。

この協定では、森の保全及び整備・自然保護に関すること、森と教育に関すること、森と健康・癒しに関すること、森と観光に関すること、森と暮らしに関すること、などについて、お互いに協力して取り組んでいくことが確認されました。

今後、この協定を足がかりとして、山中湖村と研究所がいっそう協力して、保養地・山中湖村の森がこれまで以上に活かされるような様々な取り組みをしていく予定です。



【「山部国際宿泊施設」がオープン】

近年、演習林全体で海外からのインターンシップやサマースクールなどの受け入れが増えてきており、宿泊施設の国際対応が進められています。北海道演習林でも、留学生などによる長期滞在の希望が増加していることから、このたび新たな宿泊施設を設け、4 月より運用を開始しました。

「山部国際宿泊施設」と名付けられたこの施設は、2 軒長屋の職員住宅 1 棟を全面的に改修したもので、定員は計 8 名の洋室です。オール電化で、家具・家電・食器類を備え付け、LAN も敷設されています。快適な長期の滞在により、国際的な教育・研究を支えます。



【日本学術振興会研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）の活動】

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林による研究交流課題「アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築」（コーディネーター：鎌田直人教授）が、平成 28 年度日本学術振興会研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）に採択されました。本事業では、アジアモンスーン地域の多様な気候・植生帯に演習林・試験林等を保有または管理する 5 か国（日本、韓国、台湾、タイ、マレーシア）の大学が協働して、安定的、継続的な長期観測フィールド拠点の整備と、緊密な連携に基づいた多国間研究協力ネットワークの構築を進めていきます。

この事業の一環として、平成 29 年 3 月 5 日から 11 日までマレーシアサバ大学で、マレーシアの熱帯雨林における長期観測データの収集・管理・解析・公表作業に協働して取り組むことで、参加国機関の緊密な連携に基づく多国間研究協力ネットワークの構築を進め、将来長期観測支える若手研究者の効果的な育成を目的として国際ワークショップを開催しました（下記事）。マレーシア 47 名、日本 8 名、タイ 3 名、韓国 2 名、台湾 1 名の計 61 名が参加しました。初日は日本とマレーシアの代表者による基調講演があり、両国における長期データの整備状況や研究成果に関して参加者間で情報を共有しました。また、「水・気象」「生態系」「管理」の 3 つの研究分科会において計 16 件の口頭発表があり、観測プロトコルの共通化や長期データ品質管理手法の確立、長期データ共有と利活用促進に向けた専門的な討論を行いました。さらに計 25 件のポスター発表が行われ、うち 8 件がマレーシアの学生による発表でした。優れた研究発表 3 件にポスター賞を授与し、優秀な若手研究者を表彰しました。2 日目はクロッカーレンジ公園アラブ山サブステーションにて全体エクスカージョンを行い、3 日目以降は 3 つの研究分科会別にエクスカージョンを実施し、よりテーマを絞った内容で現地見学とディスカッションを行いました。



Baba (front, tenth from left), Phua (front, eleventh left) and Kamata (front, twelfth left) at the workshop yesterday.

UMS banks on tie-ups with JSPS to bring in funding

KOTA KINABALU: Universiti Malaysia Sabah (UMS) has embarked on the core-to-core mission of the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) with the view to bringing in more environmental researchers and funding into Sabah.

UMS Science and Natural Resources Faculty Associate Professor Dr Phua Mui How, who is also the Kelvin Tan Aik Pen Forestry Chair, said that collaborations with JSPS core

to-core program," he said.

UMS vice chancellor Professor Datuk Mohd Harun Abdullah, whose speech was delivered by Science and Natural Resources Faculty dean, Professor Dr Baba Musta, said: "UMS is keen to sign a Memorandum of Understanding and a Memorandum of Agreement with the Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo. With these MOU and MOA, I hope the academic

at the selected areas, in specific, will be intensified."

The one-day workshop, hosted by UMS held with core institutions from Japan, Taiwan and Thailand to hold research in different climatic and vegetation zones across Asia.

It also aimed to promote the development of long-term research field stations for and continuous monitoring, and to est-

マレーシア・サバ州コタキナバルで行われた国際ワークショップを報道した新聞記事

(2017年3月7日 Borneo Post より)